

遠藤麻衣（1984年兵庫県生まれ）

遠藤麻衣は、東京を拠点に活動するアーティスト、俳優、研究者である。身体知、周縁化されたアーカイブ、クィア・フェミニスト的实践の交差点に関心を持ち、リサーチと上演を横断する実践を行っている。見過ごされてきた身体知や振付がいかに継承され、再演されうるかを探究するなかで、ロームシアター京都リサーチプログラム（2025年一）において「帝国を踊りなおす：テイコ・イトウの眼差しと、アジアの舞踊身体をめぐる忘却」に取り組んでいる。本プロジェクトでは、1930年代にインドネシアへ渡り現地の舞踊を学び、日本とアメリカで「東洋舞踊」を上演し続けた日系アメリカ人ダンサー、テイコ・イトウの個人史を辿っている。



2021年に東京藝術大学大学院を修了（博士（美術））。博士論文および〈蛇に似る〉プロジェクトでは、東アジアの沿岸地域に伝わる蛇と人間の異種婚譚を、地域の生態系や人間の移動とともにクィアな視点から読み直している。2022年には文化庁新進芸術家海外研修制度によりニューヨークのフランクリン・ファーンズにてアーカイブ調査を行った。近年の主な作品に、踊り子の宇佐美なつとの協働による《オメガとアルファのリチュアル》（国立西洋美術館、2024年）がある。

協働と集合的思考は、遠藤の実践の中心にある。2018年に批評家／キュレーターの丸山美佳とともにアート・ジン『Multiple Spirits』を共同創刊。美学校では「アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践」を担当し、世代を超えたフェミニスト的知識と実践の場作りに取り組んでいる。

学歴

- 2021年 東京藝術大学大学院美術研究科油画（壁画）研究領域 修了（博士（美術））
- 2018年 ウィーン美術アカデミー 交換留学（Marina Gržinić教授）、オーストリア
- 2013年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 修了
- 2011年 東京藝術大学 美術学部 絵画科 卒業

職歴・研究歴

リサーチ

- 2025年 「舞台芸術のアーカイブー帝国を踊りなおす：テイコ・イトウの眼差しと、アジアの舞踊身体をめぐる忘却」 ロームシアター京都 リサーチプログラム
- 2024年 国際共同リサーチプロジェクト「Kinship Across Geographies - デンマーク／日本におけるフェミニスト・エコロジーの前景化」（コペンハーゲン、ソウル、東京、千葉、長野／Helen Nishijo Andersen、Karen Vestergaard Andersen、嶋田美子、Multiple Spirits との共同）
- 2022年 フランクリン・ファーンズ（ニューヨーク） ゲストリサーチャー

展覧会歴 (SOLO AND GROUP)

六本木クロッシング2025：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠、2025年、森美術館（東京）日本

Eros of Our Own、2025年、hARTslane（ロンドン）イギリス

To the Freedom, We Dance、2025年、BWA ヴロツワフ・コンテンポラリーアートギャラリー（ヴロツワフ）ポーランド

ギャラリスト葵と悪役令嬢レイラの華麗なる人生やり直し契約、2025年、TAV Gallery（東京）日本

Elle empêche les choses de dormir、2025年、40mcube、レンヌ（フランス）

いつでもルナティックあるいは狂気の家族廃絶、2024年、Gallery αM（東京）日本

フェミニズムと映像表現、2024年、国立近代美術館（東京）日本

Connecting Bodies: Asian Women Artists、2024年、国立現代美術館（ソウル）韓国

ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたかー国立西洋美術館65年目の自問現代美術家たちへの問いかけ、2024年、国立西洋美術館（東京）日本

すすきの夜のトリエンナーレ、2024年、オークラビル7階（札幌）日本

屋上のアクチュアル、2023年、TAV Gallery（東京）日本

アトラクティブリーアイドリング、2023年、東京ドームシティ／東京ビエンナーレ（東京）日本

所蔵作品展 MOMATコレクション、2023年、国立近代美術館（東京）日本

TSUKIYOMI：遠近のアーカイブ、2023年、PARA（東京）日本

The City Breathes in the Interior of Buildings、2022年、mhProject（ニューヨーク）アメリカ

The Snake & the Archive、2022年、KODA House（ニューヨーク）アメリカ、Pengerukatu（ヘルシンキ）フィンランド

ひのはらアート、2022年、檜原村広域（東京）日本

身体の終わり La Clausura del Cuerpo、2022年、Las Cigarreras Centro Cultural（アリカンテ）スペイン

燃ゆる想いに身を焼きながら、2021年、愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA（名古屋）日本

『新しい成長』の提起ーポストコロナ社会を創造するアーツプロジェクト、2021年、東京芸術大学大学美術館、（東京）日本

フェミニズムズ、2021年、金沢21世紀美術館（金沢）日本

ルール？、2021年、21_21 DESIGN SIGHT（東京）日本

東京芸術大学博士審査展、2020年、東京芸術大学大学美術館（東京）日本

彼女たちは歌う、2020年、東京芸術大学大学美術館陳列館（東京）日本

新水晶宮、2020年、TALION Gallery（東京）、VOU／棒（京都）日本

Pangea on the Screen、2020年、TAV Gallery（東京）日本

満ちて欠けるとき、2020年、VBKO（オーストリア女性芸術家協会）（ウィーン）オーストリア

history in art pop up show、2017年、MAHO KUBOTA GALLERY（東京）日本

アイ・アム・ノット・フェミニスト!、2017年、ゲート・インスティテュート東京／フェスティバル
トーキョー17（東京）日本

MOT アニュアル2016 キセイノセイキ、2016年、東京都現代美術館（東京）日本

ボクは神の子を妊娠した、2015年、TAV Gallery（東京）日本

アイ・アム・フェミニスト!、2015年、ギャラリーバルコ（東京）日本

パフォーマンス／イベント

Stilllive、2025年、East East Tokyo（東京）日本

WE ARE THE HOUSE、2025年、京都アートセンター（京都）日本

触手の約束 Tentacle Cross、2025年、36回サンパウロビエンナーレ：INVOCATION #4:Tokyo、5th
floor／草月会館（東京）日本

第32回 東九条마당 마담、2024年、元・陶化小学校（京都）日本

Stilllive 2024 : Kinetic Net、2024年、クリエイティブセンター大阪（CCO）（大阪）日本

すみゆめ踊月夜、2022年、隅田公園（東京）日本

Stilllive、2019年、ゲート・インスティテュート東京、東京（日本）

TERATOTERA祭、2018年、中央線沿線各所、東京（日本）

パフォーマンスアート

鮭なら死んでるひよこたち、2023年、愛知県芸術劇場（愛知）、なみきスクエア（福岡）、生活支援
型文化施設コンカリーニョ（札幌）、日本

「プレッシャー？」－異なる肌をまとめて、2021年、BUoY（東京）、日本

なめてさわぐ、2021年、芸術準備室ハイセン、琵琶湖（滋賀）、日本

バタイユのバスローブ、2019年、naebono art studio（札幌）、BUoY（東京）、日本

千住フライングオーケストラ 縁日、2014年、東京都中央卸売市場 足立市場（東京）、日本

アーティスト・イン・レジデンス

スタジオプロジェクト：Multiple Spirits、Yellow Pen Club（ソウル）、韓国

VOUで大きな回転舞台を制作する、2023年、VOU／棒（京都）、日本

BankART Artist in Residence、2013年、BankART1929（横浜）、日本

グラント

2025年 リサーチ助成、ロームシアター京都

2025年 ネットワーキング助成、おおさか創造千島財団

2024年 渡航支援、小笠原敏晶記念財団

2021年 文化庁新進芸術家海外研修制度（一年）

2019年 東京芸術文化創造発信助成、アーツカウンシル東京

2017年 石橋財団国際交流油画奨学プログラム

執筆

In English and Japanese:

遠藤麻衣「結婚のシルエット」『フェミニズムズ』金沢21世紀美術館展覧会カタログ、2022年

遠藤麻衣「アイ・アム・ノット・フェミニスト！」ゲーティンステイトゥート、2017年 [online article](#)

In Japanese:

遠藤麻衣「テレパシーの政治と「不屈」のチャント——松澤宥、戦争、クィア・フェミニズムの交差点」Art Review Japan、2026年 [online article](#)

遠藤麻衣「額縁を必要としない私たち」『イルミナ』8号、2024年

遠藤麻衣「結婚とシャドーフェミニズムズ」RELATIONS、2021年 [online article](#)

インタビュー／座談会

「過剰な反復と微細な差異——悪役令嬢転生ジャンルをひも解く きりとりめでる×遠藤麻衣×白江幸司座談会」前・中・後編、構成：塚田優、Media Arts Current Contents、2026年 [online article](#)

「フェミニストを怖いと私に思わせたのは誰 今考える『強さ・過激さ』」聞き手：塩倉裕、朝日新聞、2024年 [online article](#)

「アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践」講師・遠藤麻衣インタビュー、美学校、2023年 [online article](#)

「アート連載『境界のかたち』Vol.3 日本発のクィア系アートZINE『マルスピ』遠藤麻衣と丸山美佳が語る、日本アート界の問題意識」TOKION、2021年 [online article](#)

「脱げないヴェールのかぶりかた：遠藤麻衣ロングインタビュー」聞き手：福尾匠、ひるにおきるさる、2019年 [online article](#)

「インタビュー（ローザ・ウ `ィサ `ウアー & 遠藤麻衣）マンカ `とアニメか `ファッションになったとき」Multiple Spirits、2019年 [online article](#)

「夫、家族、世間との関係を問い直してみる：婚姻という契約、儀式的な結婚式『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』」聞き手：鈴木みのり、FT Focus、2017年 [online article](#)

レビュー

きりとりめでる「政治的な鬱、過去の慰み、薄皮千枚の肯定 — 「Multiple Spirits | いつでもルナティック、あるいは狂気の家族廃絶」をめぐって」Gallery αM、2025年

荒木夏実「少女漫画風に描く「蛇と人の交わり」 枠組みを壊す女性アーティストたち」朝日新聞 Blobe+、2020年 [online article](#)

佐々木ののか「『当たり前』が揺らぐ時代に投げかけられた、家族や性を『つくる』ふたつの作品」QJWeb、2020年 [online article](#)

小田原のどか「女性器が『選ばれない』世界で。小田原のどか評『遠藤麻衣×百瀬文 新水晶宮』」
美術手帖、2020年 [online article](#)

福住廉「PART1アーティストの表現と実践に迫る：Gender and Sexuality in Art Now！／ジェンダーを揺さぶるアートの最前線」『美術手帖 Gender is over!?!』美術出版社、2017年

出版

「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？ 国立西洋美術館65年目の自問|現代美術家たちへの問いかけ」美術出版社、2024年

「Scraps of Defending Reanimated Marilyn」oar press、2023年

「Feminisms」金沢21世紀美術館、2022年

「あなたは自主規制の名のもとに検閲を内面化しますか」torch press、2016年

学会報告

Multiple Spirits (Mika Maruyama, Mai Endo), “Printed Revolutions: Feminist Magazines and Movements in Japan and Beyond through Queer Reading,” (Unruly Visions: Art, Activism and Intersectionality in East Asia)、Lecture Theatre, Faculty of History, University of Oxford (オックスフォード、イギリス)、2024年12月

博士論文

遠藤麻衣、「『フェミニスト』から『蛇』へ——表象と物語を演じる複合的实践の研究」(東京藝術大学)、2021年3月

パブリックコレクション

東京都国立近代美術館（東京）、日本
名古屋工業大学（愛知）、日本